

中部地区ブロック研修報告

《静岡地区 地区講習会》

1 静岡市新任者講習会

(1) 日 時 令和2年10月9日(金) 9:00~15:00

(2) 場 所 静岡市番町市民活動センター 1階大会議室

(3) 研修内容

「レッツビギン!~新任者にできること~」

静岡市巡回相談員 石川 誠 先生

「静言研について」

静岡市立番町小学校 大川 純子 先生

分科会①「『ことば』ってなあに?」(言語)

元浜松市立気賀小学校 石間志津代 先生

分科会②「LD等通級指導で大切なこと」(発達)

静岡市立宮竹小学校 杉山めぐみ 先生

(4) 研修報告

静言研の発足の経緯、理念、および活動についての講話、および、通級指導教室の制度や通級担当者としての心構え、必要なスキルについて、学ぶことができた。

言語通級の分科会では、発達段階における言葉の習得や発音のメカニズムについての講義の他、実際の発音の様子を、動画で確認し、具体的な指導方法を学ぶことができた。

発達通級の分科会では、児童の特性やアセスメントを生かした具体的な指導方法や、保護者や学校との関わり方について、通級担当者としての姿勢や考え方などを学ぶことができた。

2 中部地区講習会

(1) 日 時 令和2年6月13日(土)

(2) 場 所 オンライン研修 (Zoom)

(3) 研修内容 「保護者との対話に活用したいアサーティブ

~言いにくいことを伝える方法を学び合おう~」

NPO 法人アサーティブジャパン認定講師 谷澤 久美子 氏

(4) 研修報告

言いにくいことをどこに視点を置いて話していくかということは、何を伝えるのか学び、何を聴けばよいのかを学ぶことでもある。

アサーティブとは、自分も相手も尊重した主張である。どんな価値観であっても、相手の考えや気持ちを尊重しつつ、自分の要望や提案を率直に誠実に伝え、問題の解決を図っていくコミュニケーションのあり方である。

正論であっても、相談後に相談者が自分にダメ出しを出すような結果になってしまったりはどんなアドバイスも受け入れてもらえない。ありのままのあなたで OK! そのままのあなたで今できることを一緒に考えていこうというスタンスでありたい。

まずは自己点検。自然にやってきたことを変える、やってしまいがちなことを言語化してみる。コミュニケーションパターンを考える。

攻撃型 (ドクカン) 受け身型 (オロロ) 作為型 (ネッチー)

●グループ討議① 自分は相談の場では上記のどの型か、自宅ではどの型か。

攻撃型、受け身型、作為型、そのどれも、相談者・支援者のどちらか、あるいは両者がモヤモヤした気持ちを抱えることになる。両者ともに○になるのがアサーティブである。湧き上がった感情を言語化する。たとえ言語化したものが違ったとしても、「そうじゃない、悲しいんじゃない、辛いんだ」など、選択肢を与えることができる。絡まった感情を解きほぐし言語化することで、ストーンと気持ちの整理ができ、次へ進むこともできる。

相手も自分も尊重するには、どちらにも誠実に率直に対等に。自分とは価値観が違うお母さんの話を聞くときは、自分自身の感情ともコミュニケーションをとりながら聞く。理解を

超えた価値観にも、それを培ってきた歴史があることを念頭に置く。言わなくてはならないときは、誠実を心がけて相手の心に伝わるように話したい。

●グループ討議② 事例検討

「つつい子どもをしかってしまふ母親にどう言葉をかけるか。見ようとしない事実について考えながら話し合いを。」

まず共感（しんどいですね…。叱りすぎたことをどうしようかなと思って来てくれたんですね。）。起きている事実は何で、問題は何かを伝える。その後、感情を掴んで言語化する。提案は「〇〇しないでください」ではどうしたらよいか伝わらない。「〇〇してみましよう」の方が具体的。

●グループ討議③ 感情とは何か。

感情を言っているようでいて、実は事実のみを話しているとき、感情をしっかり掴み言語化することで、状況の整理、視野の拡大へつながっていく。

「どんな気持ちだった？」「悲しかったんだね。」

曖昧な気持ちをポンと言葉で表現してあげるとスッキリする。

●支援者自身が気持ちに余裕がないだと感じるとき、それはあなたが聴いてもらうとき。自分を大切にできることが、相手を大切にできること。そのままのあなたが、そのままのあなたで今、できることをやっいていこう。

3 中部地区講習会 担当者講習会

(1) 日 時 令和2年7月27日(月) 9:30~15:45

(2) 場 所 静岡市番町市民活動センター 1階大会議室

(3) 研修内容 「吃音のある子の理解と支援」
日本吃音臨床研究会 伊藤 伸二先生

(4) 研修報告

午前中は吃音のある保護者を対象に、午後は担当者や担任、在籍校コーディネーターを対象に「子どもが幸せに、健康に生きるために どもる子どもとの対話 ~健康生成論的アプローチ~」というテーマでご講演いただいた。

伊藤伸二先生はご自身が吃音と向き合ってきた生涯を数々の理論で意味づけされているように思う。その主なところをたくさんの資料と共に時間の許す限りお話いただいた。

吃音のある子への対応に踏みとどまらず、我々が自分と向き合い、自分自身がよりよく生きるための学問、哲学をお話いただけたように思う。

4 静岡市地区講習会

(1) 日 時 令和2年8月3日(月)~9月6日(日)

(2) 場 所 YouTube 視聴型(限定公開)

(3) 研修内容 「ネット・ゲーム依存の実態と対処」
~自身のゲーム依存からの脱却を視座にして~
滋慶医療科学大学院大学医療管理学研究科 准教授 岡 耕平 氏

(4) 研修報告

昨年度、一昨年度に引き続き「ネット・ゲーム依存」について講演会を企画し、今年度は滋慶医療科学大学院大学の岡耕平氏にご講演いただいた。感染症予防対策としてYouTube 視聴型(限定公開)に変更して実施した。参加者は164名で、遠方の会員の参加や校内研修での活用もあり、幅広い研修の機会となった。YouTube 視聴型にしたことで自由な時間に視聴できるという利点があった。

講演会では、ゲームにはまる要素、はまる行動の背景、はまらない人の共通点などについて、数値化されたエビデンスに基づき、自身の体験も踏まえて分かりやすい内容で説得力があった。子どもを取り巻く環境に対して見直しをする等の環境調整が重要であると再認識できた。実施後のアンケートでは、大変よかった・よかったが97%あったことから、視聴者に多くの示唆を与えることができたと考える。

5 検査技能講習会

- (1) 日 時 令和 2 年 8 月 4 日～8 月 29 日
(2) 場 所 オンライン研修 (YouTube・Zoom) 講師：埼玉県所沢市、受講者：各所
(3) 研修内容 「通級指導教室担当が扱いやすいアセスメントと結果に応じた指導法」
埼玉県所沢市立泉小学校 発達障害・情緒障害通級指導教室
そだちと心の教室「フロー」 坂本 條樹 先生

第 1 部 8 月 4 日～8 月 20 日 You Tube にて研修動画視聴 (アンケートにて質問受付)

- ・埼玉県所沢市の通級教室の紹介 (他地域の通級指導をまずは見学)
- ・フォーマルアセスメントの基本 WISCIV について学びましょう。(その 1) (その 2)
- ・通級指導でアセスメントツールをどのように使っているか指導の実践を見てみよう。
- ・注意機能のアセスメント
- ・神経行動教育学を取り入れた通級指導について解説 (その 1) (その 2)
- ・LD のアセスメント (書字の苦手さを見極めるための RCF Test の実施法)

第 2 部 8 月 29 日 (土)

- ・ 9 : 30 ~ 10 : 30 You Tube にて第 1 部後に出された質問に対する回答映像視聴
- ・ 11 : 00 ~ 12 : 00 質疑応答 Zoom ミーティング

(4) 研修報告

本研修は、新型コロナウイルス感染対策のために第 1 部・第 2 部前半は You Tube を使い、坂本先生が作成してくださった動画を各自で視聴し、第 2 部後半は Zoom を使ったリモートミーティングの形をとって行った。坂本先生が実際に子供をご指導される様子や所沢市通級指導教室での様々な取り組み、WISC 検査の基礎知識、子供の困り感の本質を見極めるためのアセスメント、そしてその結果の解釈、困り感に対応するための多種多様な教材、その子のモチベーションを上げるための工夫など、実に多くの引き出しの中から沢山の資料や実践をご紹介いただいた。また、神経や発達について学び、理論的な背景に基づくことの必要性や、子供を見立てる視点、教室会議、事例検討会のもち方など、通級担当者としてスキルアップするための多くのアドバイスもいただいた。